



飛翔OB会

会 同窓会
報

平成8年3月1日
第3号

「ソフト」の時代



同窓会会長 田 中 泉

卒業生のみならず、ご卒業おめでとうございませぬ。季節は春。皆さんの心もきっと春の心地でしょう。就職や進学などいろいろな苦労や迷いがあつたでしょう。でも今からほとんどの人は新しい人生を歩みはじめることと思ひます。

日本は三月に年度を終え、四月に年度が始まります。やはりこれは季節との関係があるのでしょうか。古来からのこの風習は永遠に残したいものです。私個人としては、このすばらしい季節の移ろいが感じられる土地に生まれ育つてうれしく思つています。しかし、この「年度」も少しずつ変化があるようです。それは、海外での「年度」は主に夏休みを境にしているからです。国際交流の時代の中で一つの障壁となつていくようです。

このように、これから世界的な流れの中で経済や教育、また細かいところまで追求すれば、私達一人一人の毎日の生活までが次々と変化していかなくてはなりません。そしてわれわれはそれに対応でき得る業が必要となつてきています。

いつの時代でも「心の時代」と言われます。日進月歩のこの時代、「物が豊かになるのに反比例するがごとく、心が貧しくなる」とこぼす人がいます。もちろんこれは間違つているとはいえませ

ん。確かにそうかも知れませぬ。笑う、泣く、悲しむ、怒るなどの感情は「人」対「人」で生じることで、「人」対「物」では起こりませぬ。つまり、物が豊かになり、機械が発達すれば、人は人と接することが少なくなると、感情も貧しくなるのです。

子供の遊びを見れば一目瞭然です。ほんの二十年前ほど前までは、子供は近所の子供たちと遊んだりけんかをしたりの子供の心が育ててきました。しかしながら、この頃はどうかでしょう。学校から帰れば夕飯までファミコンです。もちろん一言も話すことなく、目は画面に釘づけ、もちろん学校では友達とおしゃべりもしていません。なか恐ろしさを感じま

事務局より
① 期生会を開催した回生には本部から、補助金5,000円が支給されますのでご連絡下さい。
② 飛翔OB会新聞の原稿を募集しております。近況報告等ある方は事務局までご連絡下さい。
③ 昨年11月に発行致しました同窓会名簿に若干の余裕がございます。1冊2,500円で会員の方のみに販売しております。購入希望の方は事務局までご連絡下さい。

同窓会事務局
〒031 八戸市類家五丁目16-20
住吉治彦方
TEL・FAX0178-46-1571
電子MAIL smys5061@miconet.or.jp

さて、本題に入りましょう。今はコンピュータの時代です。皆さんはだれでもキーの一つは叩いたことがあるはずで、コンピュータは人間が使うもので、もちろん表計算やワープロとしての活用やいろいろな活用があります。

「コンピュータ」と「心」を並べてみれば相反するものに考えがちですが、「ソフト」ということはをその間に置いてみればなにか共通点が見えてくるようです。

これからは「コンピュータ」においても「心」においても「ソフト」の時代だと思ひます。

これからの時代はどちらも豊かでなくてはなりません。

「心を豊かに」――

盛大に第20回同窓会

中里市長記念講演会

自信に満ちた顔・顔・顔

和やかに近況を語り合う



第二十回 八戸工業大学第二高等学校同窓会
記念特別講演
演題「八戸の未来像について」
講師 八戸市長 中里信

昨年八月十一日(土)、八戸パークホテルに於いて第二十回八戸工業大学第二高等学校同窓会記念講演会並びに同窓会総会を開催しました。

本会同窓会は昭和五十一年三月八日に発足以来、五千余名の卒業生が社会に雄飛し、郷土八戸を中心として各界各分野にわたり、中堅あるいは新進気鋭の人材として広く活躍しております。

その二十周年記念講演会として、地方中核都市として発展を続け、国際化にも柔軟に対応する市政を展開されている中里信男市長に、二十一世紀への道標となる御講話を頂きました。

三時から定時総会が開かれ、平成六年度決算、活動報告及び平成七年度予算、活動計画を決議しました。

引き続き行なわれた中里信男市長の記念講演「八戸の未来像について」では、五十万都市八戸に向けて、中里市長が展望を述べ、出席者は熱心に聴き入り、講演後半で座席が足りなくなるなど、又、予定時間を三十分もオーバーする程盛会でした。

講演会後、引き続き懇親会が開かれ、石塚利孝(三回生)の開会の辞のあと、田中泉同窓会々長から同窓会発足からの二十年の歩みを含め、あいさつがありました。又、中里信男市長、柳谷吉理理事長、山田静校長の三氏にご祝辞を頂くことができました。

そして同窓生の健勝と母校の発展を祈って、初代校長の根城正一郎先生が乾杯の音頭をとって下さいました。

本年卒業生の参加が一番多かったのですが、各年度の卒業生も多数出席され、写真撮影や近況報告する光景があちこちで見られ、誠に和やかな雰囲気で行うことができました。又、元本校音楽講師の金子真知子先生によるピアノ演奏や、ビデオによる本校風景紹介、ゲーム等で大いに盛り上がりました。

懇親会終了後、各期同窓会が開かれ、八戸の繁華街は二高同窓会であふれかえりました。

四回生はオルゴール、六回生はマイ・ウェイ、七回生は六文銭、十回生はしんちゃん、十一回生はライオン、二十回生

五回生同期会

第五回卒業 杉本佳子



卒業してから16年になります。その間何回の同期会があったでしょう。卒業時には2年ごと

に開こうと約束をしましたが回を重ねることに参加数が減り、いつしか忘れていました。ちょうど、仕事、恋愛、結婚と絶好に楽しく、その時でなければできない事にそれぞれ熱中していたのだと思います。いつしか時は過ぎふと思いつく事が

できたのは、ほんの何年か前です。

前回、3年前になりましたが、同期会を開催した時にはたくさんの方が参加初めに参加する人、全く変わっていない人、太って貫禄のある人、みんな輝き、今を一生懸命に生きていく様子がかうかがえました。先生方もお忙しい中ご出席いただき、懐かしい話、今だからこそ話せる事など、時を超え10

代の私達となりました。

今私達は35才になりました。社会において最もむずかしく忙しい位置にいますが、様々な生き方で頑張り、お互い励まし合っているの信頼を深めていきたいと思えます。同じ青春の一部をすごした仲間には最高の友だちと私は確信し、そういう友が集まる同期会がこれからもずっと続く事を願っています。



はゆりの木ボウルでボーリング大会と、それぞれ楽しいひとときを過ごした様です。

最後に、この紙面をお借りして、同窓会開催にあたりご協力下さいました関係各方面の皆様にお礼申し上げますと共に、来年度同窓会への御協力をよろしくお願い申し上げます。(同窓会事務局)

バレ一部のOB会発足する 「蒼茫會」



漆館 栄一

「蒼茫會」(そうぼうかい)は、バレエボール部OBを中心に結成された会です。現在は市内の大会を中心に活躍し、好成績を収めています。初めは、単に試合に出場するだけの目的で結成され、今年(平成8年度)で十五年を迎える事になりました。会員も増え、試合だけでなく年に数回行われる親睦会で、楽しく交流を深めています。十五年前から現在に至るまで、五回生の坂下淳一君が中心となって会の存続に力を注いで来ています。新しいメンバーの中からリリーダース

「蒼茫會」(そうぼうかい)は、工大二高の校歌の一節からつけた名称です。これからも工大二高と深くかわりを持ちながら、楽しい会になればと考えております。
(元工大二高教諭)



平成2年卒業男子バレーボール部

平成七年度同窓会新幹事決定 八戸・関東地区で計二十名

平成七年度卒業生(第二十一回生)の中から、次の二十名が同窓会の幹事に選出されました。毎年のことですが、卒業する学年の中から、八戸地区と関東地区の幹事を各クラスから一名ずつ選出しています。

幹事の事は、決して、選ばれた人達の負担になるようなことはありません。主な仕事は、五月の関東支部同窓会総会および八月の同窓会総会の受付や、卒業クラスの友達への参加の呼びかけ、同窓会会員名簿改訂の際の住所や進路先の確認作業などです。幹事以外の一般会員になる皆さんも幹事からの連絡があった際は、心よく協力し幹事の仕事を助けてあげて下さい。

同窓会幹事名簿

	八	戸	関	東
1	関田	橋村	弘剛	江里
2	河原	村木	一志	津香
3	岩出	間河	信仁	由親
4	小山	倉岸	貴三	智智
5	月福	館田	久美	晃美
6	吉杉	田山	里美	周美
7			美子	奈也
8			春美	穂二
9			珠	
10			中	
11			野	

卒業生からの声

思い出と将来の夢

「三年たって」
中野渡 直

三年前、私は県立受験に無念の涙をのんで、工大二高の門をくぐった。最初の頃は、この制服で町の中を歩くのが嫌だった。あれから三年。今では、この学校にきて良かったと思っている。いい仲間がいて、いい思い出ができて、あとあと思い出すに値する高校三年間だと思っている。もし、他の高校に通い、

もっと良い人生を歩むことができたとしても、自分の「今」を創り出してくれた、二高の三年間の思い出に満ちたこの人生が好きである。

これからは、社会の波にもまれていくであろう。どんなに努力しても、どうしようもできない領域に足を踏み入れるのかもしれない。それでも、「この道より我を生かす道なし」と思い、自分の運命を信じ歩んでいきたい。

「友達と私」

松本 真紀子

三年間の毎日を振り返ると、様々な出来事があったことを思い出します。二高祭や体育祭、修学旅行などいろいろな行事はとても楽しくて、特に、三年生になってから行われた行事の数々は、心に強く残っています。

それらの学校行事を私が本当に楽しむことができたのは、友や先生方のおかげです。だから、私の一番の思い出は、行事の回数よりも、友達と一緒に過ごした時間なのです。私と一緒に過ごしてくれた友達に

とても感謝しています。

そして、更には一生忘れられない思い出があります。それは受験の時にお世話になった先生方のことです。先生が私に言ってくれた言葉の数々は、つらい事がある度に思い出され、勇気を与えてくれることと思います。

「多くの事を学んで」

三浦 教 芳

桜の花びらが舞う四月。期待と不安を胸に抱いて入学式を迎えた日から、もう三年の月日が経ちました。そして、この間に私は沢山のことを学びました。

皆、一丸となって勝利

- 一、第十九回関東支部総会
 - ・平成八年五月十八日(土)の十七時四十分
 - ・ホテル聚楽
 - ・(東京都千代田区神田淡路町二一九)
 - 一、会費、二千円
- 一、(土)の十八時
- ・八戸パークホテル
- ・(八戸市吹上一丁目十五一九)
- 一、第二十一回同窓会総会
 - ・平成八年八月十日



卒業生のみなさん、卒業おめでとうございませう。私は、第十四回工大二高卒業生(美術コース六期生)です。高校三年生の時に、東京都美術館で行われた第五十二回大潮展学生部門において油彩作品(F40号)で「大潮会大賞」を受賞。また世界的グラフィックデザイナーの福田繁雄先生が審査員を務めた東北工科大学美術デザイン大賞「グランプリ」を連続して受賞させていただく事が出来ました。

当時から私は、将来の進路に対して美術方面(グラフィック・デザイン)か、もしくは放送関係のどちらかでプロに、と真剣に悩んでいました。金銭的な問題や親の意見もあり、美術短期大学進学、グラフィック・デザイン科で学んだ後、東京の広告代理店に就職しました。仕事内容の出来、不出来より、企業の決められたワクの中にどれだけスムーズに対応していけるかが、社内の評価でした。高校時代の賞歴もプラスに働き、運良く入社させてもらっ

卒業生のみなさんへ



本会同窓会幹事
川端 有紀子

た私でしたが、有名五美大出身者が多い社内先輩や年上の後輩についていくのは至難の業でした。さらに要領の悪さ、フグ・ホリデービザを取り、貯金したお金を持ってオーストラリアに半年滞りました。言葉や価値感の違い、治安が悪い、仕事は何回も首にならなると予想はしていましたが、体力的にも限界を感じていました。しかし、辛い体験もありました。その後、日本に帰ってか

自分のこれからの人生を、模索すべく、厳しい状況の中で客観的に見つめるために、ワーキング・ホリデービザを取り、貯金したお金を持ってオーストラリアに半年滞りました。言葉や価値感の違い、治安が悪い、仕事は何回も首にならなると予想はしていましたが、体力的にも限界を感じていました。辛い体験もありました。その後、日本に帰ってか

能を信じて努力を重ねても芽が出るかどうか分りません。食べていけるかどうかも分からない仕事だという事は重重承知です。初めは家族に迷惑をかけると思いますが、希望を持ち、前向きな姿勢でがんばっていきましょう。今年一月十二日から十五日までの4日間、4人絵画展「輝海展」を開催しました。名前の由来

は、世界へ通じる、輝く広い海へ、チャンス(機会)を願って航海の旅に出るという意味です。主催者は、神林 麻里 (工大二高第十四回生美術コース卒)、大嶋 一枝 (工大二高第十四回生進学コース、日本外国語専門学校旅行科卒)、竹越 智津子(八戸東高、岩手大学教育学部卒)と私です。全員同じ年で、それぞれ美術部、美大などを



お願ひ申し上げます。海外滞在の経験で、日々